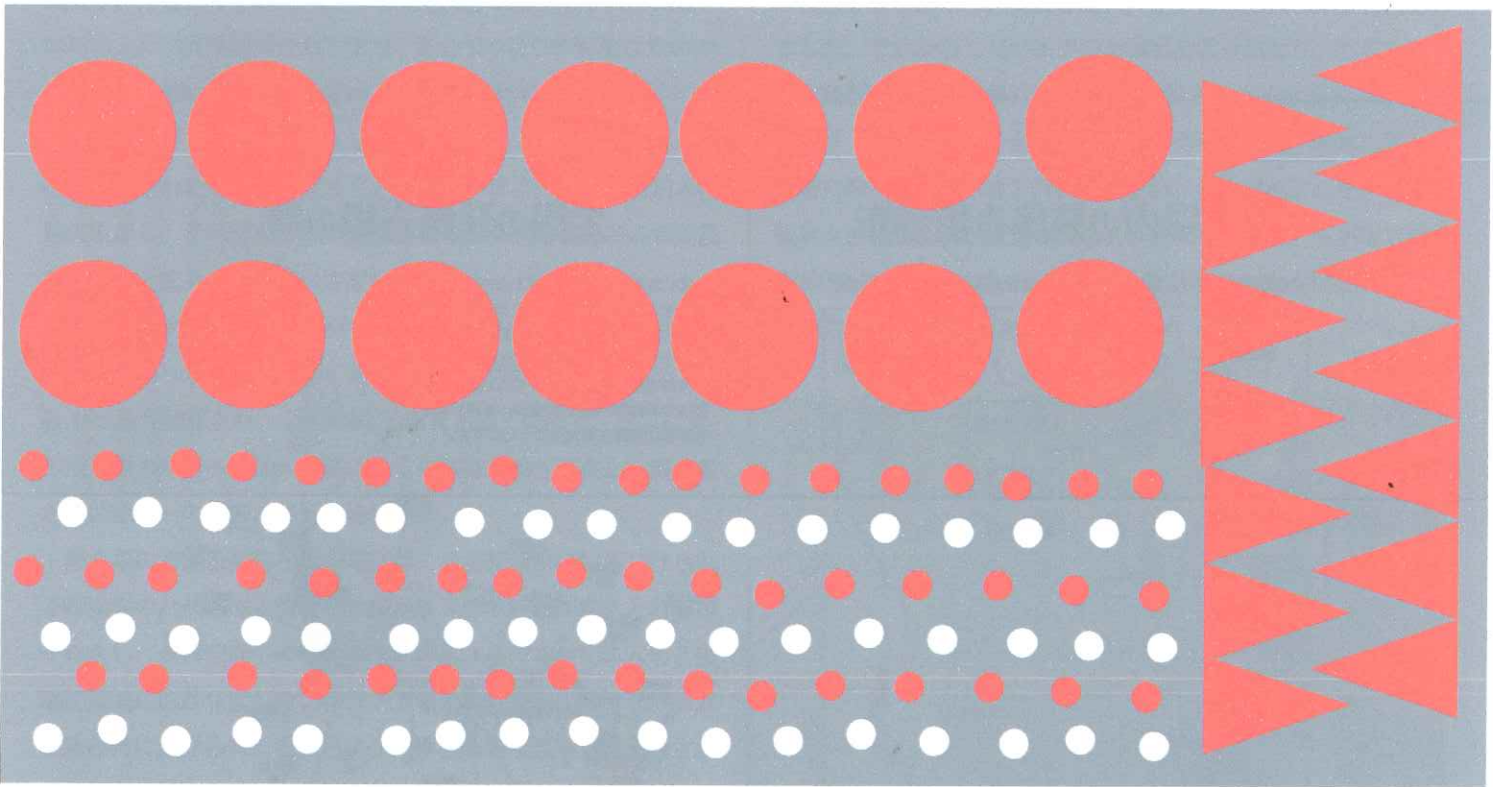


KUMAMOTO PREFECTURE, KIKUCHI RIVER

# DECORATED TOMB OF TAMANA CITY

熊本県 菊池川流域

たまなし そうしよく こふん  
玉名市の装飾古墳

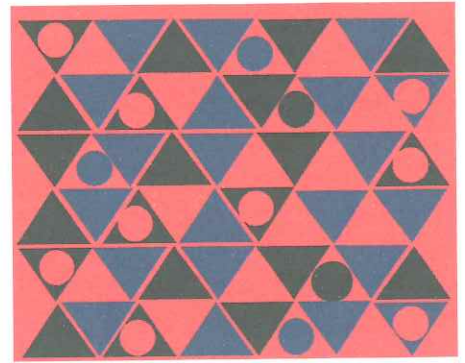


だいぼう こふん  
大坊古墳  
えいあんじひがしこふん  
永安寺東古墳  
えいあんじにしこふん  
永安寺西古墳

いしぬきあなかんのんよこあな  
石貫穴観音横穴  
いしぬき よこあなぐん  
石貫ナギノ横穴群



Tamana City Board of Education  
玉名市教育委員会

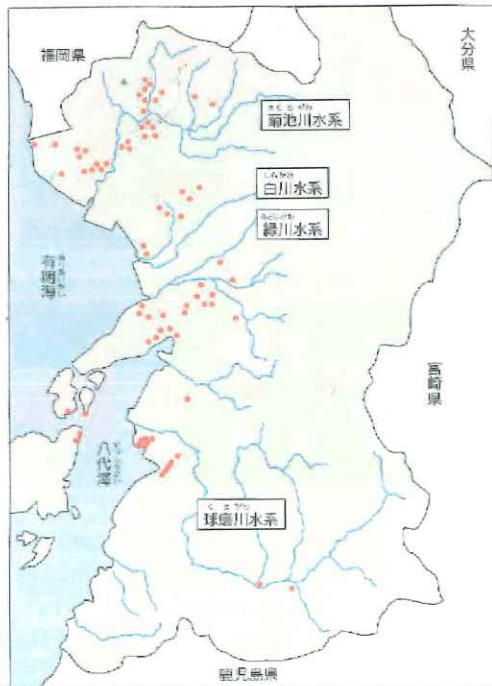


## content

- 1. 装飾古墳とは？ ..... 1
- 2. 大坊古墳 ..... 2
- 3. 永安寺東古墳・永安寺西古墳 ..... 5
- 4. 石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群 ..... 8
- 5. 装飾古墳を守り、次世代に伝えるために ..... 12

### 熊本県内の装飾古墳分布

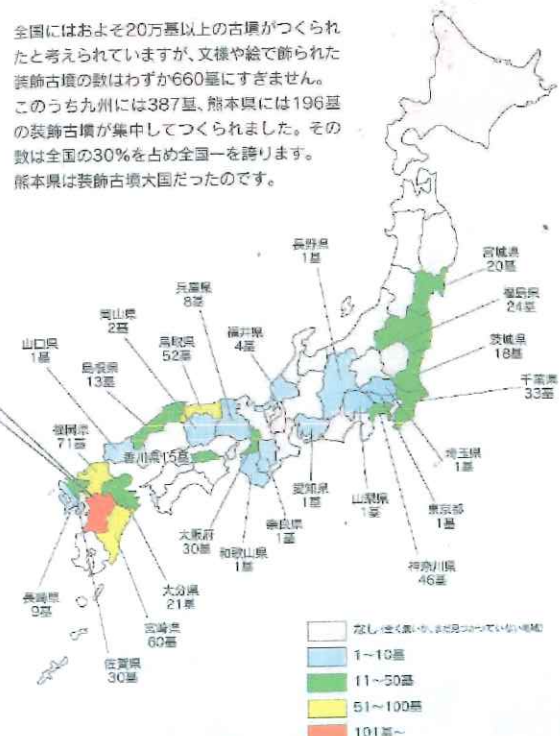
熊本県内には 196 基の装飾古墳や装飾横穴墓がみつかっています。



(装飾古墳の数は平成21年3月末現在のものです。)

### 全国の装飾古墳の数

全国にはおよそ20万基以上の古墳がつくられたと考えられていますが、文様や絵で飾られた装飾古墳の数はわずか660基にすぎません。このうち九州には387基、熊本県には196基の装飾古墳が集中してつくられました。その数は全国の30%を占め全国一を誇ります。熊本県は装飾古墳大国だったのです。



(『熊本県立装飾古墳館館内パンフレット』より)

# 1. 装飾古墳とは？

3世紀中ごろから7世紀中ごろ（約1700年～1300年前）にかけて、土を盛り上げた大きなお墓が全国各地に築られました。これを古墳といい、この時代を古墳時代と呼んでいます。古墳時代の終わりごろ（6世紀～7世紀にかけて）には、岩などの崖面に穴を掘って遺体を安置する横穴墓が多く造られるようになりました。これら古墳内部の石室や石棺、横穴墓の壁面などに文様や絵画が描かれたり、彫刻されたものを装飾古墳と呼んでいます。装飾古墳にはさまざまな形態があり、地域ごとで多様な特色があります。装飾が施される場所は、古墳内に収められる石棺の表面や内側、石室の壁面、横穴墓入口の縁や内部の壁面などです。文様の種類には、円文や三角文などの幾何学的図形と、人物や動植物などの象形的図形があり、赤色などで鮮やかに彩色されたり、浮き彫りされるなど多彩な表現があります。装飾には、当時の人々の死生観が表れており、死者への祈りや邪悪なものの排除などの想いが込められていると考えられています。

装飾古墳がどうやって発生したのかは定かではありませんが、石棺に施された直弧文が始まりとされています。それから日本各地に広がり、それぞれの地で地域色を増しながら個性あふれる装飾古墳へと拡大発展していきました。

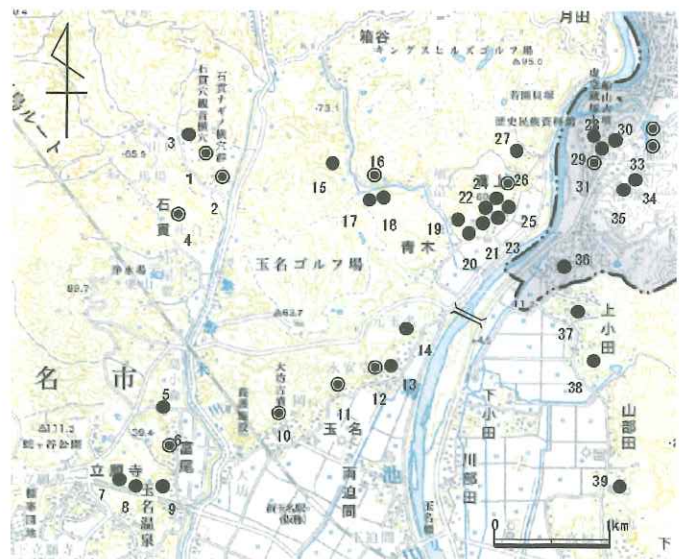
全国に装飾古墳は660基ほど確認されており、分布には地域的な偏りがあります。最も多く集中しているのが熊本県であり、現在196基が確認され、全国の約30%を占めています。さらにその熊本県の中でも菊池川流域は多くの装飾古墳が所在し、質・量ともに全国一の装飾古墳分布地域です。

熊本県における装飾古墳の発展は、5世紀前半に位置づけられる県南部の八代市の古墳から始まり、天草や宇土半島へと分布域が拡大し、5世紀後半には熊本県北部、さらに6世紀に入ると菊池川流域に広がりました。時代が下るにつれ装飾の内容も横穴式石室の奥に設けられた石屋形や横穴墓の飾縁及び内部に彩色されるなど、バリエーション豊かになっていきます。

- 1 石貫穴観音横穴 2 石貫ナギノ横穴群 3 大平寺横穴群 4 石貫古城横穴群
- 5 宮尾溝谷横穴群 6 宮尾原横穴群 7 大塚古墳 8 小塚古墳 9 冷水横穴群
- 10 大坊古墳 11 永安寺東・西古墳 12 馬出古墳 13 小路古墳 14 元玉名横穴群
- 15 塔ノ尾横穴群 16 横島横穴群 17 二俣横穴 18 六反横穴群 19 田代中の塚古墳
- 20 田代阿弥陀塚古墳 21 宮ノ後古墳 22 赤禿古墳 23 前田古墳 24 真福寺古墳
- 25 真福寺東古墳 26 城泊間横穴群 27 水尻横穴群 28 京塚遺跡
- 29 虚空蔵古墳 30 船山古墳 31 塚坊主古墳 32 長力横穴群 33 北原横穴群 34 松坂横穴群
- 35 松坂古墳 36 桶山古墳 37 部田古墳 38 徳丸古墳群 39 山下古墳

菊池川流域では、県南部の八代・天草地方で装飾古墳が消滅した後の6世紀代になって出現する傾向があります。菊池川下流域では石貫穴観音横穴、石貫ナギノ横穴群、大坊古墳、永安寺西・東古墳、菊池川中流域ではチブサン古墳、弁慶ヶ穴古墳など代表的な装飾古墳が築られました。石室内部や横穴墓の飾縁に円文、連続三角文が赤などで鮮やかに描かれているのがこの地域の特徴です。また、朝鮮半島の百濟産と推定される大坊古墳出土の金製耳飾りや、永安寺東古墳に描かれた船や馬の文様から、朝鮮半島及び大陸との交流も窺えます。

装飾古墳の調査及び保護については、大正時代に浜田耕作・梅原末治氏によって熊本県下の装飾古墳が調査され、その成果をもとに、大正6年わが国の考古学史上の大きな画期となった、『肥後に於ける装飾ある古墳及び横穴』が京都帝国大学から刊行されました。それからしだいに注目を集めるようになり、石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は大正10年3月に熊本県下のほか5ヶ所（井寺古墳・千金甲甲古墳・千金甲乙古墳・釜尾古墳・大村横穴群）の装飾古墳と共に国の史跡に指定されました。それ以後次々と装飾古墳が指定されるようになりました。玉名市では、昭和52年に大坊古墳、平成5年に永安寺東古墳・永安寺西古墳が国指定史跡となりました。



玉名地域主要古墳、横穴墓分布図

## 2. 大坊古墳

大坊古墳は、菊池川右岸の玉名平野を望む丘陵の先端に位置しており、今から約 1450 年前（6 世紀前半から中ごろ）に造られた古墳です。測量図などから全長 40m を超える程度の方前・後円墳と考えられています。

大坊の集落の北側丘陵裾部に大坊天満宮が位置し、その背後に古墳があります。東西に細長い丘陵部分を利用して築かれ、西側が前方部、東側が後円部です。後円部には、南に開口する横穴式石室が設けられています。石室内部は、手前に前室、その奥に玄室（奥室）があり、複室と呼ばれる構造です。玄室は平たい石を積み上げて構築されており、中に遺体を安置する石屋形が設けられています。石屋形は板状の石を組み合わせて箱状に造られており、奥壁には、赤・黒・青（灰色）などの顔料で連続三角文、円文が描かれています。

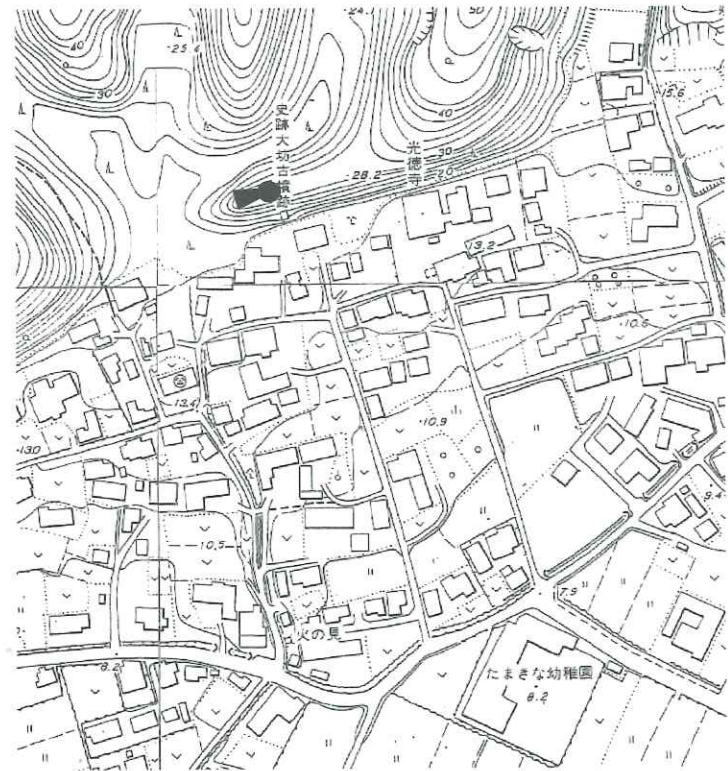
大正 6 年に京都帝国大学刊行の「肥後に於ける装飾ある古墳及び横穴」の中で報告され、昭和 34 年に熊本県の史跡に指定されました。昭和 38 年には田添夏喜、田邊哲夫両氏と熊本県立玉名高校の生徒を中心とした発掘調査が実施され、石室内から土器類のほか、金製の垂飾付耳飾りや、水晶製勾玉をはじめ玉類などの装身具、鞍金具や鐙、杏葉などの馬具、直刀や鉾などの武器が出土しました。青磁碗も出土し、古くから開口していたことがわかりました。

昭和 48 年、50 年には墳丘を保護するため、コンクリート擁壁工事が行われました。昭和 52 年に国の史跡に指定され、昭和 52 年～54 年に石室を保護するため整備工事が行われました。

出土品の一部は玉名市立歴史博物館ころピアに展示してあります。



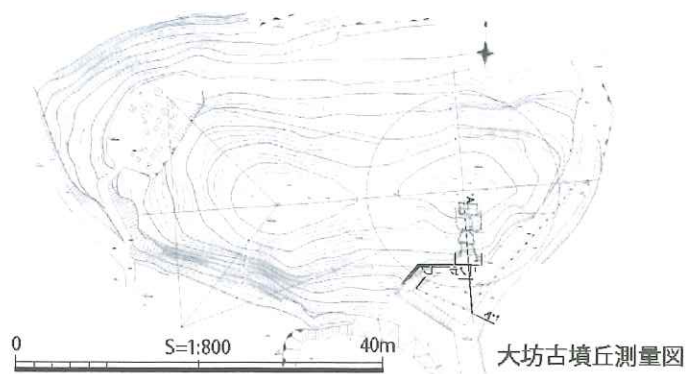
大坊天満宮と後方山中が大坊古墳



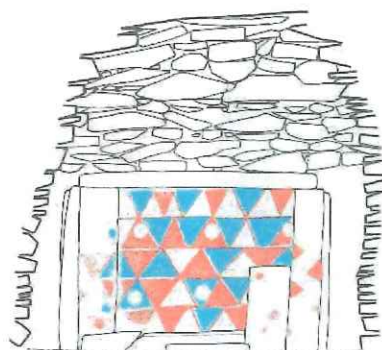
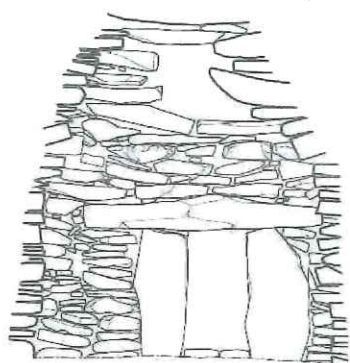
大坊古墳位置図



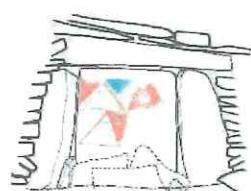
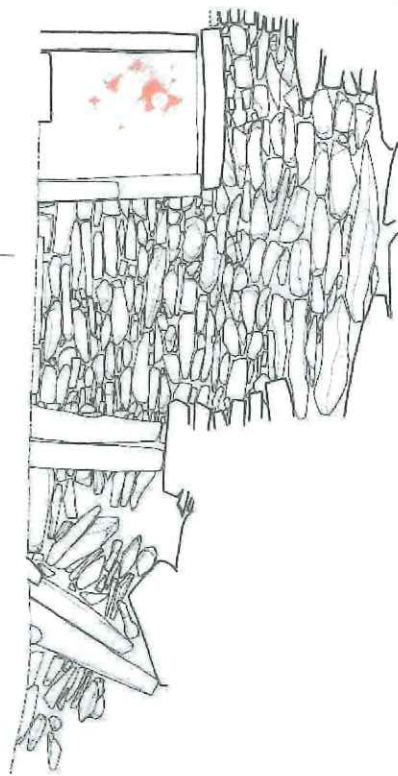
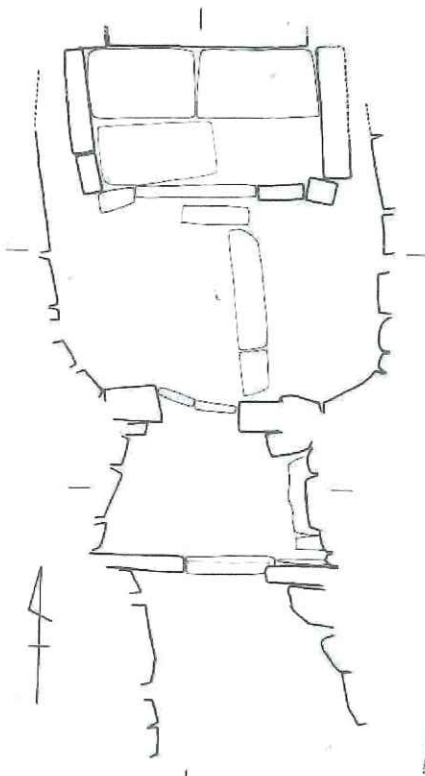
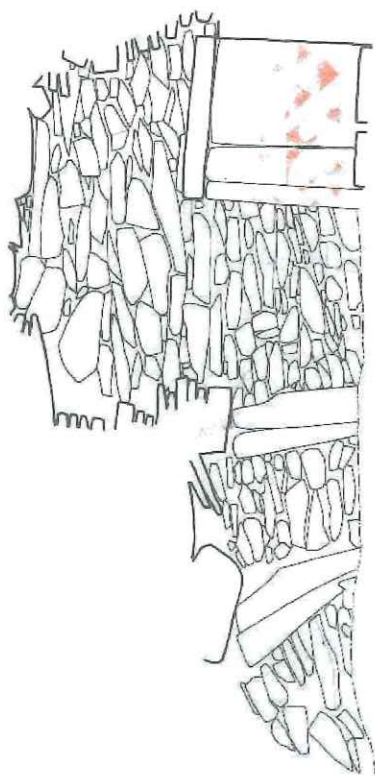
大坊古墳周辺測量図



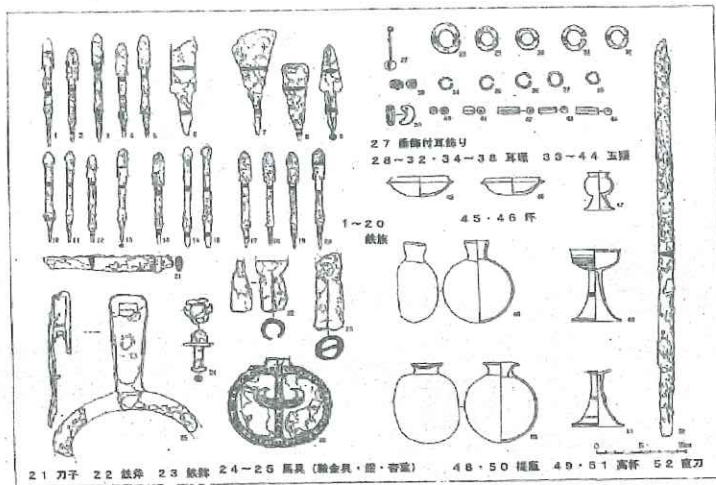
大坊古墳丘測量図



大坊古墳石屋形奥壁の装飾



大坊古墳石室実測図

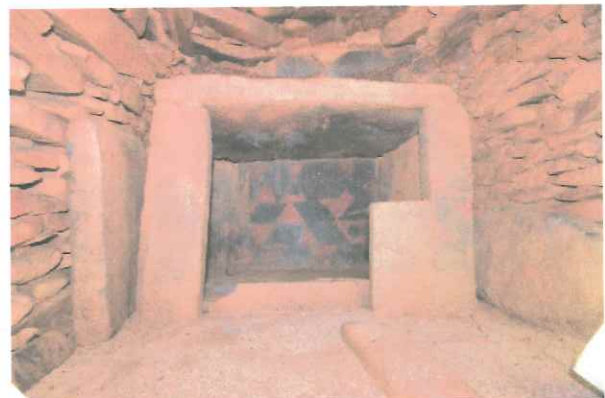


大坊古墳出土品

- 1～20 鉄鏃
- 21 刀子
- 22 鉄斧
- 23 鉄鉞
- 24～26 馬具
- 27 垂飾付耳飾り
- 28～32・34～38 耳飾り
- 33～44 玉類
- 45・46 杯
- 48・50 提瓶
- 49・51 高杯
- 52 直刀



大坊古墳保護施設（南から）



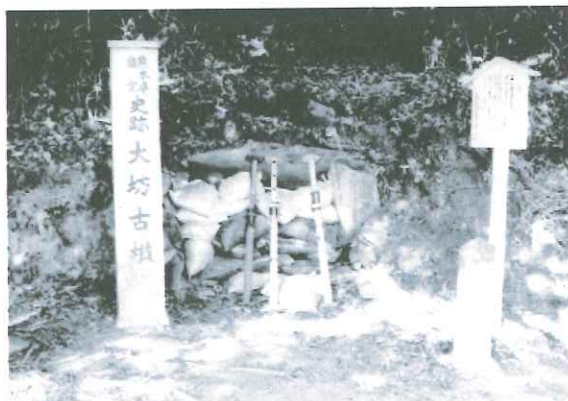
大坊古墳石室形



大坊古墳見学室アプローチ



大坊古墳見学室のガラス扉



整備前の大坊古墳石室入口



整備前の大坊古墳

### 3. 永安寺東古墳・永安寺西古墳

永安寺東古墳・永安寺西古墳は、今から約1400年前（6世紀後半～7世紀初め頃）に造られた古墳です。菊池川右岸の玉名平野をのぞむ丘陵の先端にあり、東西に2基が並んでいます。いずれも円墳で、南に開口する横穴式石室が設けられています。

石室内部は、入り口から羨道を通して、手前に前室、その奥に玄室（奥室）があり、複数とよばれる構造です。玄室には、遺体を安置する石屋形が設けられています。西古墳については、上部が失われていました。

永安寺東古墳・永安寺西古墳の最大の特徴は、石室内部に装飾が施されている装飾古墳であることです。石室内は、赤の顔料で描かれた、三角文・円文で飾られています。東古墳では、船や馬も描かれています。西古墳の装飾は、残念なことに色が失われてしまっており、外郭線だけが残っています。

永安寺東古墳・永安寺西古墳は、大正6年に京都帝国大学による調査報告書が刊行されたことから、広く知られるようになりました。また、昭和39年には東古墳の装飾が雑誌の表紙を飾ったことから、一般にも広く注目を集めました。その一方で、東古墳の前面は崩壊が進んでおり、保存のために昭和48年に覆屋がかけられましたが、装飾の傷みが進むのを防ぐことができませんでした。その後、平成4年には国指定史跡となり、平成6年には、公有地化をはかりました。平成11年度から平成17年度にかけて保存整備事業を実施しました。両古墳ともに、石室の一部や墳丘の元の形が失われていたために、平成11年度から発掘調査を行い、墳丘や石室を調べました。その結果、東古墳では、失われ

ていた羨道から前室にかけての石材の一部が見つかりました。また、西古墳では、従来、単室であると考えられていた石室が、複室であることがわかりました。

墳丘は、いずれも円墳と考えられますが、13世紀以降に、周辺の地形が改変されていたことがわかりました。同じ時期に、西古墳の石室も壊されたものと考えられます。西古墳からは、馬具や装身具などの副葬品が見つかりましたが、石室が壊された際に、その多くが失われたようです。

平成15年度には、永安寺東古墳の整備工事を行いました。発掘調査で見つかった前室の石材を使って、失われていた部分を一部復元しました。また石室を保護するとともに、一般の方が見学可能なよう保護見学室を設けました。彩色による装飾古墳は、急激な温度・湿度の変化が大敵です。また、光が当たることも極力さける必要があります。このため装飾を保護するために、日頃は密閉してあります。永安寺西古墳は、平成16年度から17年度にかけて整備を行いました。東古墳とは違った整備の方法を用いています。最大の特徴として、古墳全体を大きなドーム状の屋根で覆っています。西古墳の装飾は、すでに色が失われているために、密閉してありません。発掘調査で明らかになった羨道から前室の部分は、発掘調査のときの状態のままに保存されています。また、失われていた石屋形については、樹脂で形を表しています。

平成17年度には、両古墳の周辺整備として、見学者の便宜を図るために、遊歩道や解説板の設置工事を行いました。



永安寺東古墳



永安寺西古墳

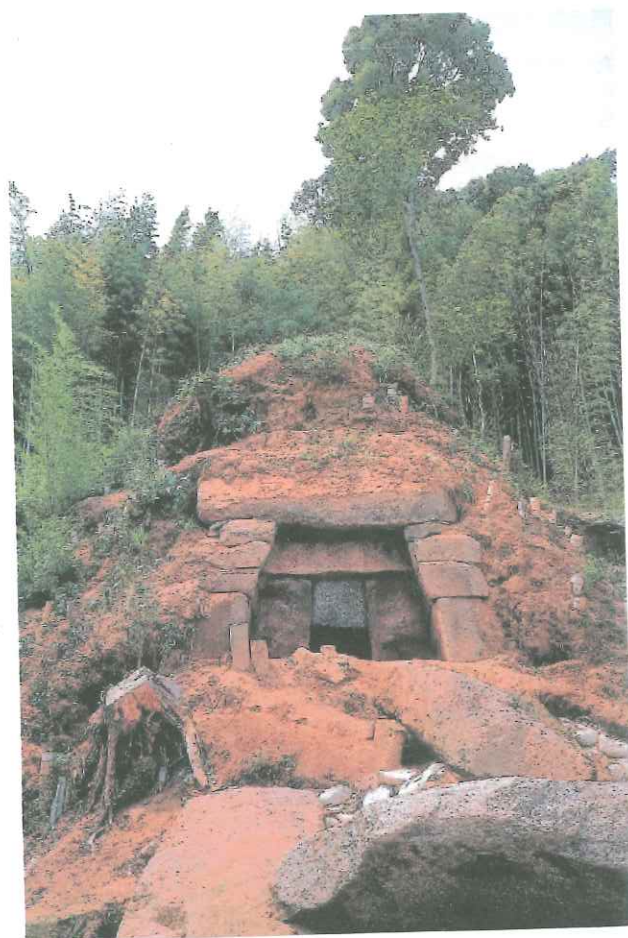


永安寺東古墳・永安寺西古墳測量図（整備前）

玉名平野北側には、最高点の標高約88mの丘陵が広がっており、その丘陵南側裾部に永安寺東古墳・永安寺西古墳をはじめ多くの古墳が築かれています。古墳の南側は平野部が広がり、墳丘上からは水田などの耕作地を一望できます。

永安寺東古墳・永安寺西古墳は周辺には、地名の由来となっている永安寺という寺院があり、戦国時代に廃絶したことが伝わっております。古墳の墳丘や周辺の敷地は、これまでの土地利用過程で、削られるなどかなり造成されているものの、中世の石塔などが残っています。また、古墳整備に伴う確認調査では、弥生時代の甕棺墓も確認されています。

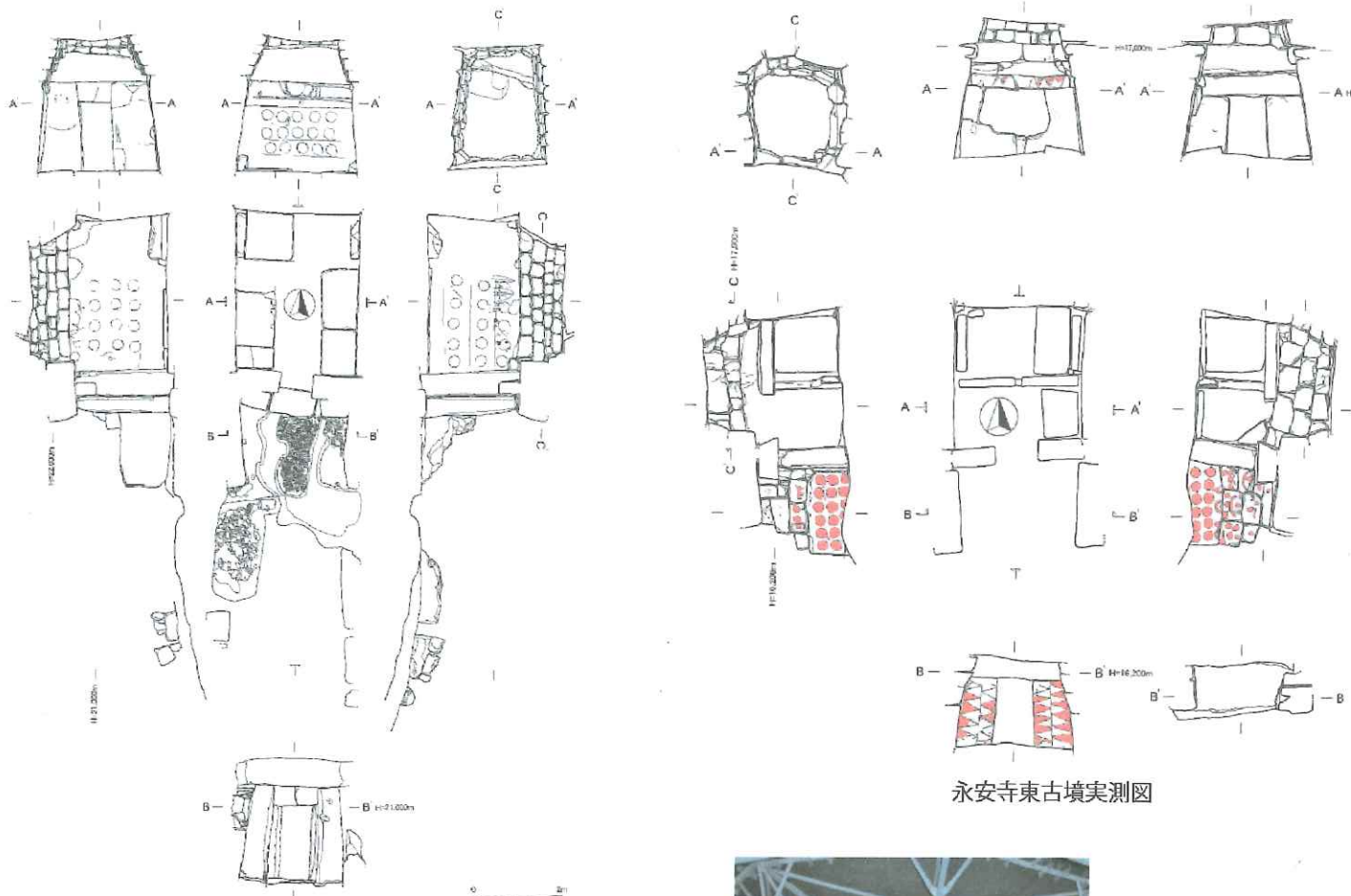
永安寺東古墳石室の装飾は、前室部分中心に円文や三角文が赤で鮮やかに描かれています。前室側壁の下半分には円文が横2列に描かれ、上半分には船を表しているような図柄などがあります。奥室入口の石には、連続三角文が描かれています。塗ってある顔料の保存状態が非常に良く、全国的にも貴重な装飾古墳です。



整備前の永安寺東古墳

6、7ページの永安寺東古墳写真  
熊本県立装飾古墳館提供  
撮影 奈良文化財研究所 牛嶋茂氏





永安寺西古墳実測図

永安寺東古墳実測図



永安寺東古墳玄室入口



永安寺西古墳保護施設内



永安寺東古墳前室西壁



永安寺東古墳前室東壁

## 4. 石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群



石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は、菊池川支流の繁根木川右岸に所在する、装飾のある横穴墓群です。南北に細長い丘陵の西側崖面に石貫穴観音横穴が5基、東側崖面に石貫ナギノ横穴群が48基確認されています。横穴墓入口の飾縁には線刻されているものや、赤色などで彩色されているものがあり、石貫ナギノ横穴群の大刀のレリーフなど多様な装飾が施されています。横穴墓としての規模・内容も優れており、玉名市が全国に誇る史跡です。

石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は、古墳時代に築造されて以後、周辺は寺院及び神社となっていました。丘陵上には、後田古墳がありましたが、丘陵全体が後世に地形の改変を受けており、墳丘などの内容はよくわかっていません。

石貫穴観音横穴のふもとは、寛正2年(1461)臨濟宗の寺院である安世寺が開かれました。菊池氏一族の藤原為安が、菊池の臨濟宗正観寺第十五笑耘和尚を招いて創建したと伝えられています。現在寺院はなくなっていますが、周辺には五輪塔群などが残っています。

両横穴群の丘陵上には、石貫熊野座神社がありましたが、昭和初期に火災に遭い繁根木川左岸に移築されました。寺社がなくなっても、地元の人々によって横穴墓と周辺の清掃・保全がなされ、大切に保存されています。

石貫穴観音横穴は丘陵西側にあり、3基が並んで築かれ、北東にやや離れて1基、さらに下方に1基の計5基が確認されています。西側から1号墓とされ、並んだ1～3号墓に装飾があります。1号墓は飾縁に赤と白の円文、2号墓は飾縁に赤の円文と内部奥壁に千手観音象、3号墓は赤の彩色が施されています。2号墓が位置的、構成的に中心を成し、規模も大きく飾縁の幅約2.6m、高さ約2.3m、入口から玄室の奥壁まで約3.7mを測ります。屍床上部の底には軒丸瓦状の円形突起が設けられていることも特徴的です。横穴墓の形態などから6世紀中ごろの築造と考えられており、千手観音象に関しては、諸説があり年代特定は困難な状況ですが、作風などから平安時代ごろの作と推定されます。横穴正面には拝殿が設置され、古くから信仰の対象となっています。

石貫ナギノ横穴群は丘陵東側にあり、凝灰岩の崖面に南北約250mにわたって48基の横穴が確認されています。横穴群は位置などでいくつかのグループに区分されます。部分的に崩落しているところもあり、埋没しているものもあると推定されます。横穴群の中で6号墓と8号墓の彩色が最も保存状態が良く、飾縁に同心円文などが描かれています。また、8号墓内部の石屋形には同心円文と連続三角文が線刻され、石屋形と側壁の間に大刀が浮き彫りされているなど、多様な装飾があります。



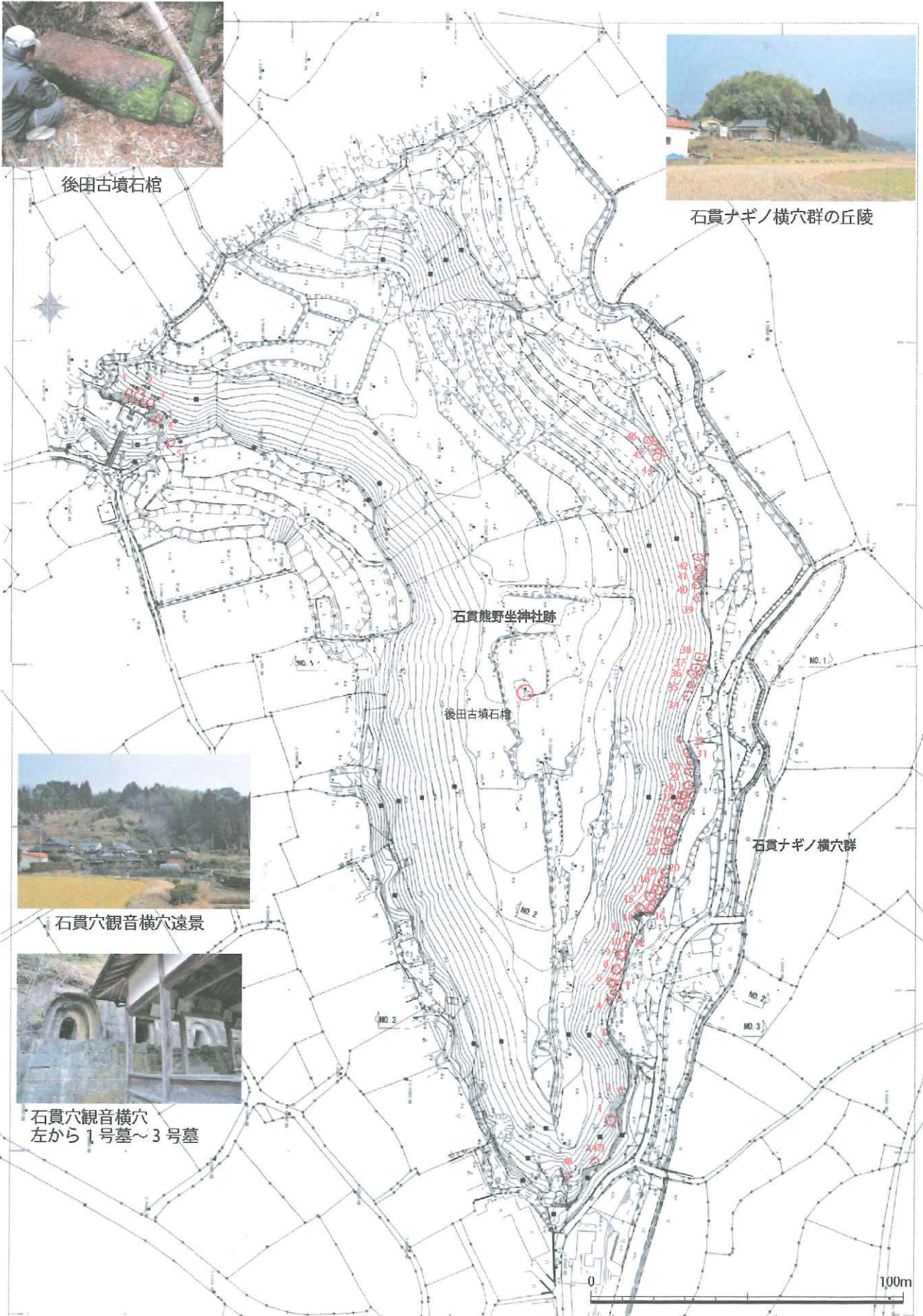
石貫穴観音横穴、石貫ナギノ横穴群位置図



後田古墳石棺



石貫ナギノ横穴群の丘陵



石貫熊野坐神社跡

後田古墳石棺

石貫ナギノ横穴群

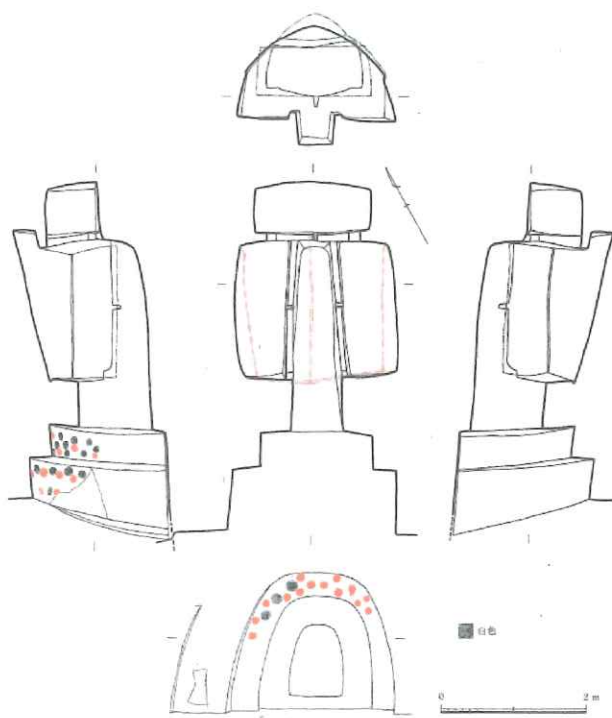


石貫穴観音横穴遠景



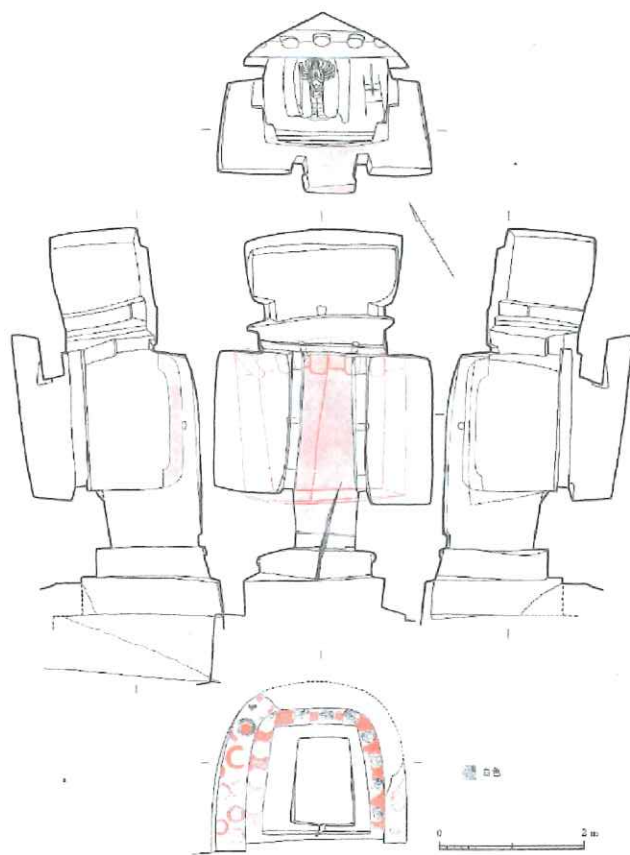
石貫穴観音横穴  
左から1号墓～3号墓

石貫穴観音横穴、石貫ナギノ横穴群測量図



73の3図 石貫穴観音1号横穴墓実測図

石貫穴観音横穴群1号墓実測図



石貫穴観音横穴群2号墓実測図



石貫穴観音横穴群1号墓



石貫穴観音横穴群1号墓飾縁装飾



石貫穴観音横穴群3号墓



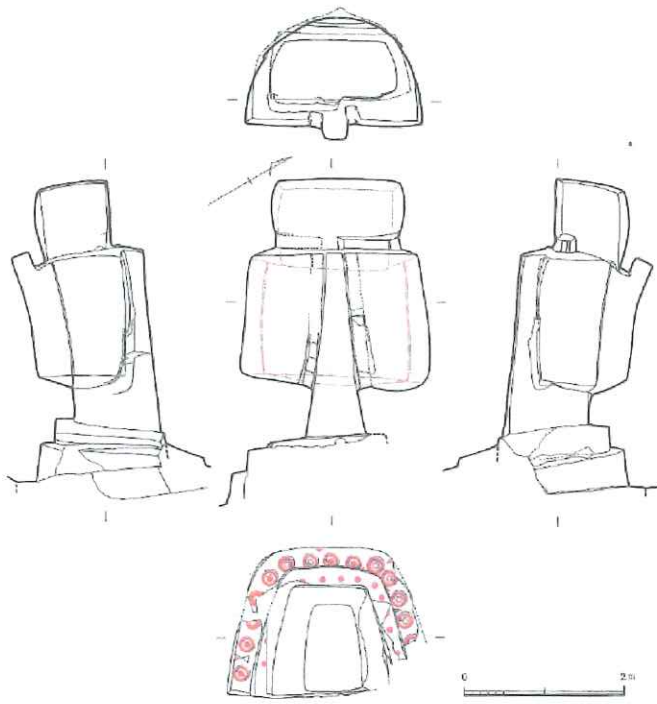
石貫穴観音横穴群2号墓



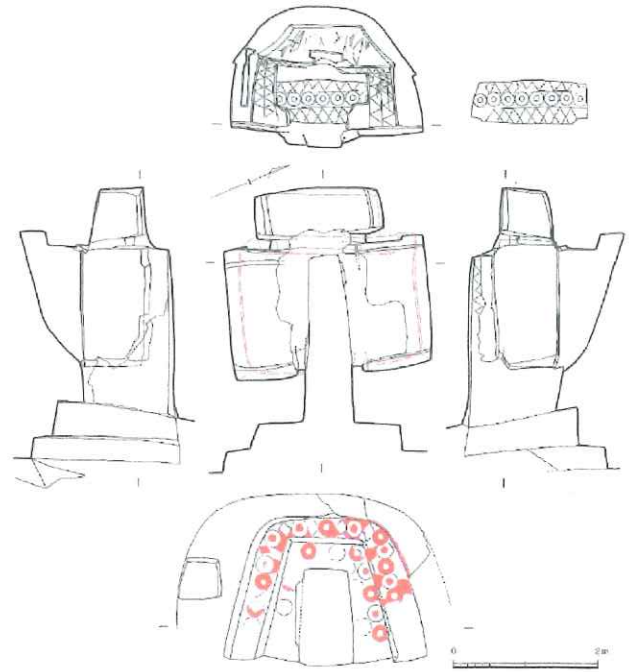
石貫穴観音横穴群2号墓内部



石貫穴観音横穴群2号墓内部の  
千手観音像の浮彫(左)と十一面千手観  
音像(右)



石貫ナギノ横穴群 6号墓実測図



石貫ナギノ横穴群 8号墓実測図



石貫ナギノ横穴群



石貫ナギノ横穴群 8号墓



石貫ナギノ横穴群 6号墓



石貫ナギノ横穴群 8号墓内部



石貫ナギノ横穴群 9号墓



石貫ナギノ横穴群 44～46号墓

## 5. 遺跡の保護、活用へ向けて

— 装飾古墳を守り、次世代に伝えるために —

玉名市では装飾古墳を保護するための各種事業を行っています。昭和52年度から53年度にかけては大坊古墳の保存整備工事をを行いました。全国的にも装飾古墳の整備工事が行われる初期の頃であり、それ以来装飾は保存されています。

平成5年には永安寺東古墳・永安寺西古墳の保存整備工事の準備をしていましたが、熊本県指定史跡の青木磨崖梵字群の崩落が進みつつあったため、急遽そちらの保存工事を平成8年から10年にかけて実施しました。崖面に亀裂が入り、一部崩落しかけた岩もある状態であったため、亀裂に樹脂を充填し、崖面にアンカーボルトを挿入するなど崩落防止の措置を採りました。時代は違うものの、石貫ナギノ横穴群と同様の凝灰岩に構築された文化財であり、その工法は横穴墓の保存整備工事の参考となりました。再び永安寺東古墳・永安寺西古墳の保存工事が本格化し、平成11年から平成17年度にかけて保存整備工事を実施しました。東古墳は全体を盛土し、壊れている羨道部分に鉄筋コンクリート造の見学室を設置する構造で整備しました。西古墳は、残存している墳丘及び石室を、鋼管造のドーム形保護施設で覆う構造としました。保護施設の屋根は硬質発泡スチロール、表面は真土と樹脂を混ぜたモルタル吹き付けとしました。

装飾古墳の多くは通常非公開ですが、貴重な文化遺産を多くの人に知ってもらうため、見学会を定期的に行ってきました。

大坊古墳は、昭和54年に整備が終わった以降、日頃は石室を施錠して管理していますが、定期的に一般公開して石室内と装飾を見学できるようにしました。主に10月の第3土日、職員の現地解説付きで実施し、市内外から多くの見学者が来訪しています。平成18年の秋の公開から整備が終わった永安寺東古墳を加え、さらに平成27年3月から石貫ナギノ横穴群と石貫穴観音横穴を加え、史跡の保護とともに周知、活用を積極的に行っています。また平成21年秋から玉名市以外の和水町、山鹿市などの市町にも貴重な装飾古墳があることから、時期を合わせて菊池川流域全体の装飾古墳の一斉公開を始めました。その後熊本市や八代市、人吉市の装飾古墳熊本県全体に広がり、連携して公開するよう進めています。

石貫ナギノ横穴群  
見学状況



大坊古墳温湿度管理



永安寺西古墳温湿度測定  
機器メンテナンス



永安寺東古墳石室見学状況

青木磨崖梵字群



熊本地震後の  
永安寺東古墳視察



熊本地震後の永安寺東古墳石室内と被害確認作業



菊池川流域主要装飾古墳分布図

平成 29 年に菊池川流域の稲作文化が、米作り、二千年にわたる大地の記憶 ～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～ として日本遺産に認定されました。

日本遺産とは、文化庁が平成 27 年度に新設した制度で、その地域の歴史的経緯や、地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承、風習などの有形・無形の文化財をパッケージ化し、一つのストーリーとして認定する制度です。認定後は、積極的に国内外に打ち出し、観光など地域活性化につなげていくというものです。

菊池川流域の装飾古墳は、米文化に関するストーリーを構成する文化財のひとつとして取り上げられています。

認定にあたっては、流域の 3 市 1 町、熊本県、国土交通省菊池川河川事務所に加え、観光、商工、農業、文化財保護などの民間各団体の参加による、菊池川流域日本遺産協議会（会長：中嶋山鹿市長）を設立し、活用事業を推進しています。

菊池川流域の日本遺産を紹介する専用 HP の作成、SNS による情報発信、流域全体をガイドできる人材育成事業、物産館などでの米文化に関連する食べ物の販売などを行っています。



チブサン古墳 (山鹿市)

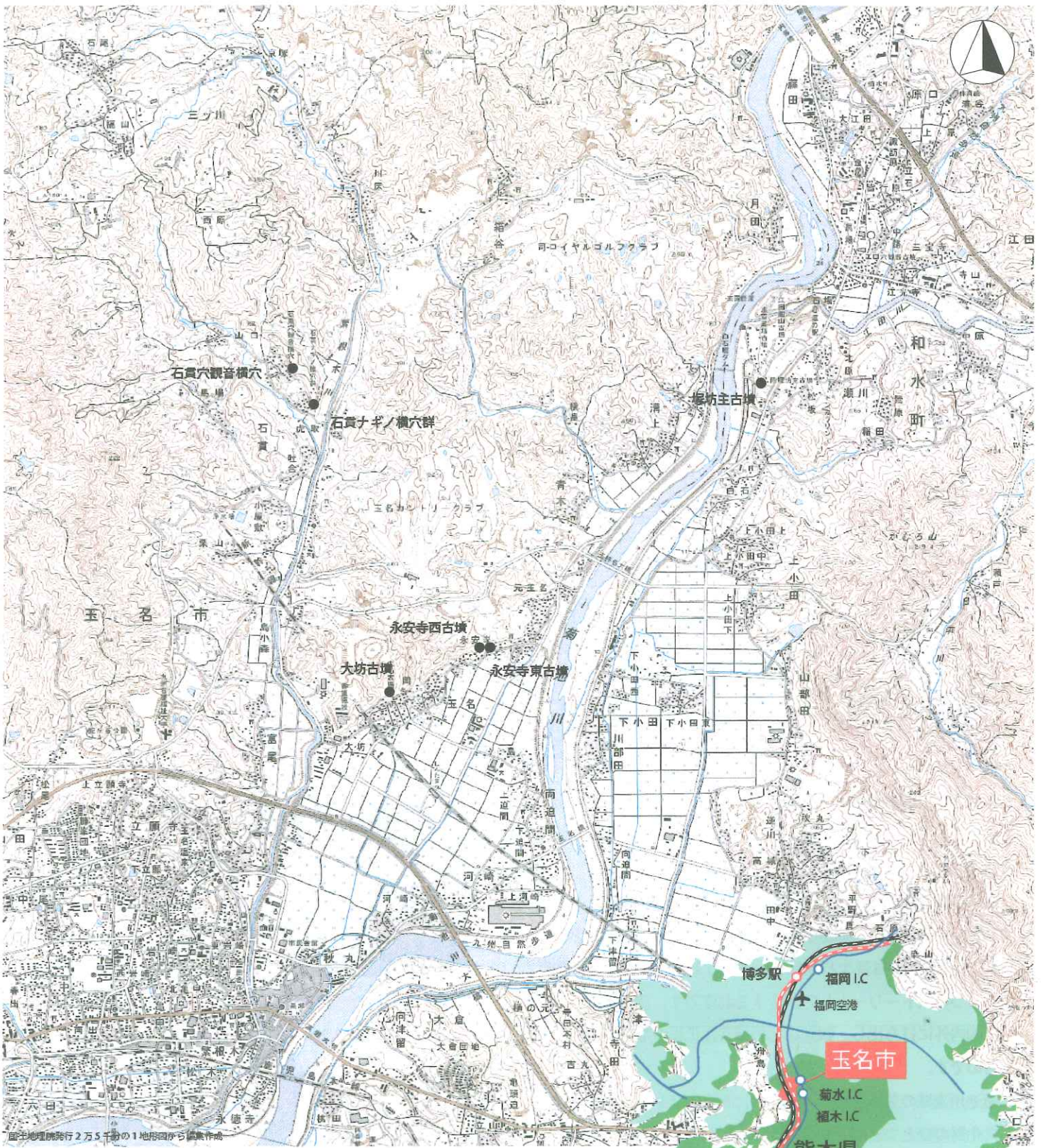


弁慶ヶ穴古墳 (山鹿市)



塚坊主古墳 (和水町)





玉名地域主要装飾古墳位置図

制作・発行 玉名市教育委員会  
 企画・編集 教育部文化課  
 〒865-0072 熊本県玉名市岩崎 163  
 TEL.0968-75-1136 FAX.0968-75-1138  
 印刷 令和元(2019)年5月  
 © 2019 玉名市

<参考文献、図出典>  
 高木正文 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県文化財調査報告書第68集  
 田中康雄 2006『史跡永安寺東古墳・永安寺西古墳保存整備事業報告書』玉名市教育委員会  
 保存科学研究会東京支部編 1979『史跡大坊古墳保存工事報告書』玉名市教育委員会

玉名市ホームページ <https://www.city.tamana.lg.jp/>  
 日本遺産協議会ホームページ <https://www.kikuchigawa.jp/>  
 熊本県立装飾古墳館ホームページ <http://www.kofurkan.pref.kumamoto.jp/>